

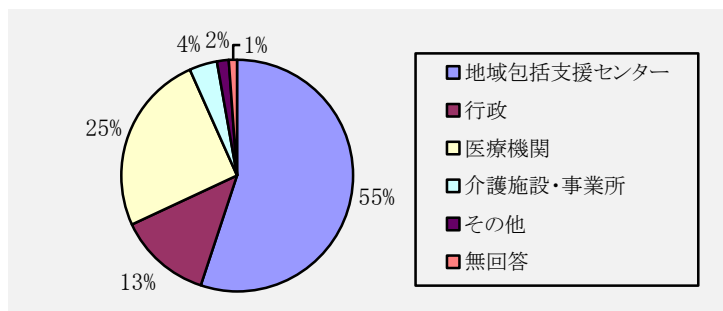
全国区市町村における認知症初期集中支援チームの実態調査結果

平成 27 年度 老人保健推進事業補助金 認知症初期集中支援チームの実態に関する調査研究事業報告書より一部抜粋

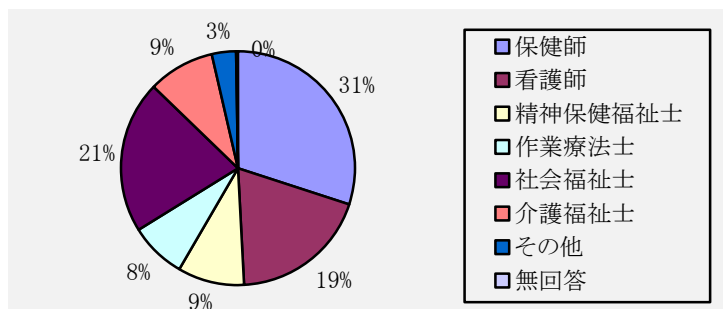
1 チーム員・医師アンケート調査より

【チーム員票】 全体n=555

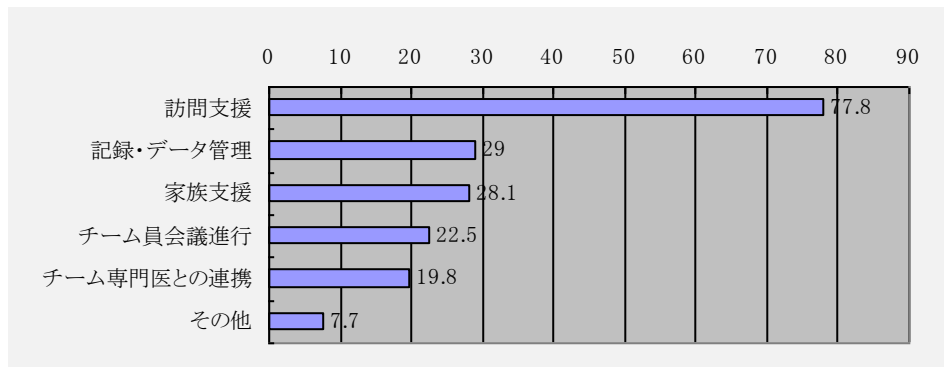
➤ 所属



➤ 職種

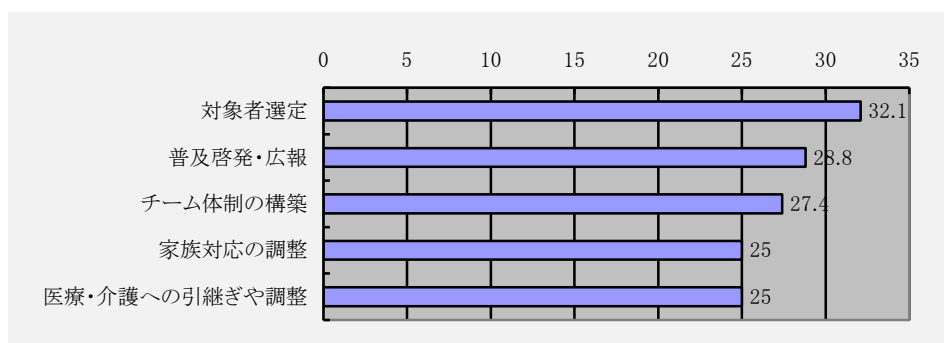


➤ 主な業務（複数回答 %）



各職種による偏りは無く、分担している様子が伺えた。

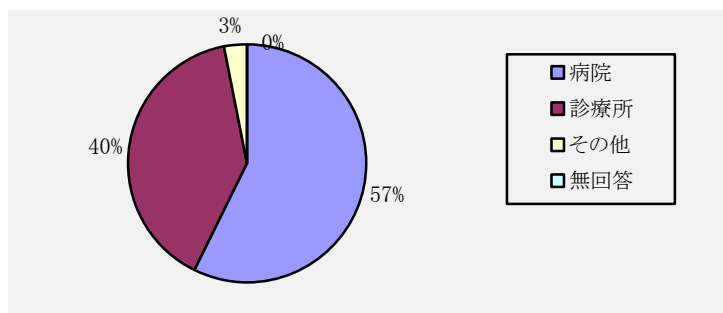
➤ チーム活動で難しいと感じるもの ベスト5（複数回答 %）



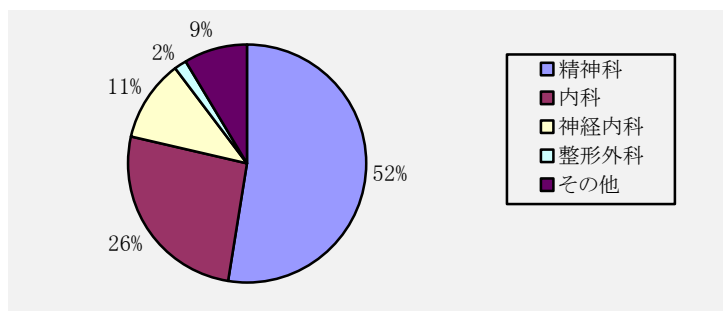
活動の初期段階にあるチームが多いことも影響していると思われる。

【医師票】 全体n=164

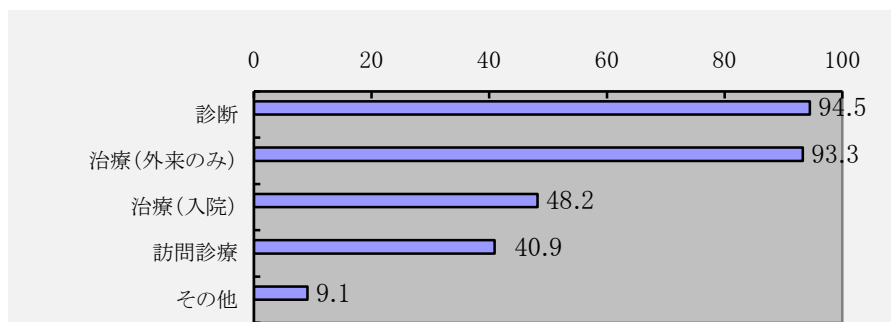
➤ 医療機関種類



➤ 主な診療科

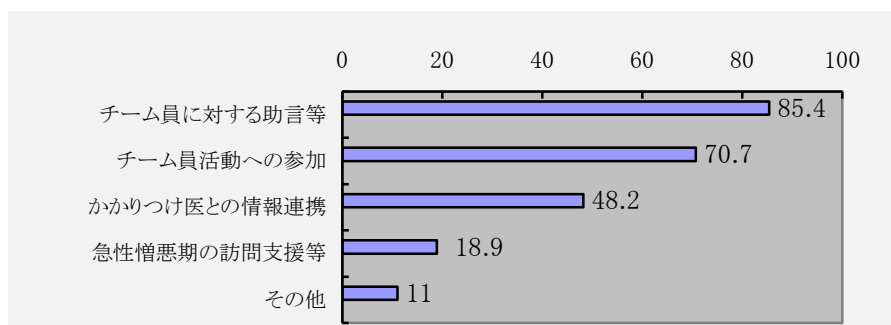


➤ 日常行っている認知症医療（複数回答 %）



とくに訪問診療については、実施率が低く、チーム活動としての訪問活動は、日常診療の延長線上には考えにくい面が伺われた。

➤ チーム活動の状況（複数回答 %）



必要性や意義を評価する一方で、具体的な参画の難しさ、特に訪問同行の時間確保や対象者の「かかりつけ医」との連携について困難さを指摘する自由記載が多かった。

2 ヒアリング調査より

	三重県桑名市	愛知県津島市	山梨県山梨市	愛知県名古屋市	山口県宇部市
活動年数	初年度	初年度	2年度	2年度	3年度
チーム 設置場所	委託包括 5チーム	委託包括 3チーム	直営包括 ＊訪問活動の み外部委託(医 療法人)	委託包括 29チーム	直営包括
訪問件数	9ヶ月で 49 ケース (月5.4件)	3カ月で7ケ ース (月2.3件)	14カ月で18 ケース (月1.3件)	20か月で127 ケース (月6.4件)	今年度 36 ケ ース (月3件)
参考：H26 高齢者人口	3.3万人	1.7万人	1万人	53万人	5万人
広報活動	広報・講演会	関係機関へ事 業説明	広報	広報 関係機関・市民 にチラシ 事業説明会	広報・チラシ 取組説明会
関係機関 との調整	市内のサポー ト医が10人 いて、もともと 理解あり	情報共有ツール活用 医師会の医師・各事業所が PC、タブレット、スマホ等に インストール	かかりつけ医 との双方向の やり取りは難 しく、チーム員 からの経過報 告様式のみ		医師会への働 きかけ チーム員会議 に主治医や関 係機関が参画 できるよう調 整
対象者の 把握	包括相談ケー スの中からピ ックアップ		もの忘れ相談	インテーク情報 から総合相談と 本事業を振り分 け	家族、包括から
チーム員 会議	月1回1時間 初回ケース20 分、継続ケース 5分		運営は包括、場 所は認知症疾 患医療センタ ー 週1回16時 から1時間		月1回 運営は病院と 共同開催
訪問支援	チーム員2名 または包括職 員+チーム員1 名		初回は包括の 訪問活動の一 貫でDASC 等実施		チーム員と包 括で協力

課題として感じていること

初年度

・対応ケース数のめどもつかず、どのケースに対応していくのか、流れの見当がつきにくかった。

2年度目

- ・チーム員のスキルアップが必要。
- ・訪問対象数増に対応するためのマンパワー不足。
- ・地域全体の認知症理解の促進及び認知症支援施策の充実が必要。

3年度目

- ・チーム員の活動が専任ではないため、適切なタイミングで介入できないことがある。
- ・早期介入を逸している事例が多く、自らの守備範囲での対応が難しくなってからの介入依頼が多い現状。
- ・支援により状態が安定し終了しても、モニタリングで再調整が必要なケースがある。
(家族や当事者の状況変化、支援の中断、ケアマネジャーの課題抱え込み等)